

シリーズ：私たちができるSDGs③ 目標4「質の高い教育をみんなに」



今月のテーマ



良い教育を受けられ、生涯学び続ける機会を広めよう

持続可能な社会をつかっていくために自分たちの家庭生活を見直し、環境問題などを解決するために、社会の一員として何ができるのかを考えてみませんか。

宮之城中学校

— SDGsに取り組んでいます —

担 当する技術・家庭（家庭分野）の授業では、その日の内容がSDGsのどの目標と関連するか意識してもらうために学習目標と一緒にSDGsのロゴを提示します。生徒は、消費生活や環境問題、防災、地域との関わりなどについて、個人やグループで考えて発表したり、表にまとめたりして学んでいます。2年生の夏休みの課題「もったいないプロジェクト」では、家庭でできるエコ活動を計画し実践します。食材や調理方法を工夫したエコクッキングや着られなくなった服のリメイク、節電や節水を意識した電気や水道の使用量推移の比較など、家族にSDGsを広めるきっかけにもなっています。様々なアイデアとチャレンジに感心させられることが多いですね。

SDGsは家庭生活と関連が強く、必要不可欠であることを授業で伝えられたらいいと思います。また、社会の一員として地域も考えて行動することが中学生には求められます。過去から学び、現在は何ができるか、どのように未来につなげるかという視点に立ち、考えて行動することを大切にしてほしいですね。



沖洲 知子 教諭

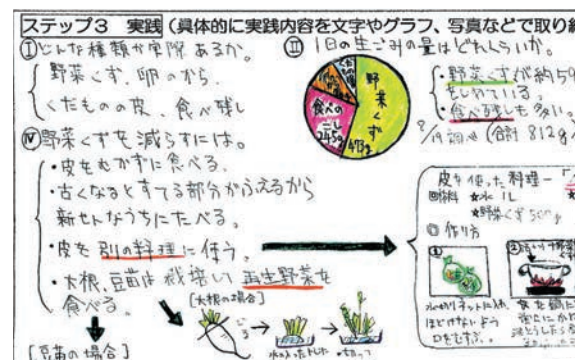


身近な問題を学び、考える

教科書だけではなく、自分の住むまちの現状を知るために講師を招き授業をしています。生徒は身近な問題としてSDGsを意識して、自分にできる解決策を考えます。



町のカーボンニュートラルへの取組について学びます



どのようにして野菜くずなどの食品ロスを減らすか計画し実践した結果をレポートにまとめます

黒鳥公民館が届出避難所に登録

7月3日、求名地区の黒鳥自治公民館が届出避難所に登録されたことから、上岡勉公民会長が登録通知書の交付を受けました。上岡会長は「公民館が避難所となったことで、高齢者などの早めの避難につながると思います」と話しました。

届出避難所は身近な公民館などを避難所として自主的に開設・運営し、避難者のストレス軽減や感染症防止など地域防災力の強化を目的としています。町では登録する公民館を随時募集していますので、総務課危機管理係にお問い合わせください。



上野町長（左）が上岡会長に届出避難所の標識を交付しました

ヤクルト うそ電話詐欺の防犯に協力

7月13日、うそ電話詐欺防犯アドバイザー委嘱状交付式が行われ、さつま警察署の福元俊一署長が川内ヤクルト販売株式会社ヤクルトさつまセンターに委嘱状と防犯アドバイザー証を交付しました。一般家庭や高齢者施設を訪問する機会が多いヤクルト配達員が、うそ電話詐欺の被害に遭わないよう呼び掛けを行い、警察と連携しながら地域を見守っていきます。ヤクルトレディの今村美保さんは「地域の皆さんや、特に一人暮らしで心配な方を見守っていき、地域に貢献したいです」と話しました。



委嘱状と防犯アドバイザー証の交付を受けたヤクルトレディとヤクルトさつまセンターのマネージャー

犯罪のない明るいまちを目指して

7月1日、薩摩保護区保護司会が、社会を明るくする運動の内閣総理大臣メッセージを伝達しました。犯罪や非行の防止と更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする運動で、伝達式には町更生保護女性会も参加。安全で安心して暮らせる明るい町づくりに取り組んでいきます。



保護司会の田中実会長（中央）と役員5人が来庁

温暖化防止に向け三者で連携

6月23日、本町、株式会社鹿児島銀行、九州電力株式会社鹿児島支店による連携協定締結式が行われました。協定では、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向け、三者が連携、協働していくことを約束。温室効果ガス排出の低減対策、再生可能エネルギーの推進や電化・省エネルギー化を進め、9月に予定している「持続ある未来づくり、カーボンニュートラルさつま町宣言（仮称）」の推進と地方創生を目指します。

鹿児島銀行の市坪孝一経営企画部長は「県内全体へ成果を波及させ、地域課題の解決や地方創生につなげたいです」、九州電力の樋口和光支店長は「地元企業などと連携し地域で取り組むことが不可欠。三者で協力して進めていきたいです」と話しました。



左から、鹿児島銀行の市坪経営企画部長、上野町長、九州電力の樋口支店長